

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：12603

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20693

研究課題名（和文）共通語『現代ヒンドゥスターニー語』の解明

研究課題名（英文）Revealing the New Hindustani Language as a lingua franca

研究代表者

ハーン アーミル・アリー（Khan, Amir Ali）

東京外国語大学・世界言語社会教育センター・教授

研究者番号：80436659

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：パキスタンやインド国内に留まらない、南アジア地域出身者の共通語としてのいわゆるウルドゥー語でもヒンディー語という呼称の枠に当てはまらない言語の解明の基礎となる資料の収集、移民多住地域でのデータ収集を行った。質問票の集計、分析は現在も継続して実施しており、ウェブサイトでの公開を予定している。

また、副産物というわけではないが、日本国内でウルドゥー語を学んだ者たちが記した書簡を分析した成果として『日本におけるウルドゥー語書簡』（ISBN: 9-789697-679157）をパキスタンから刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

パキスタンとインドは、2024年5月時点でも政治的には決して歩み寄る姿勢が見られないが、実際にはウルドゥー語とヒンディー語という枠組みを超えて、共通の文法構造を持つ言語を用いる者同士、ほぼ支障なく意思疎通が可能である。また、ヨーロッパ各地に移民として居住している、南アジア地域にルーツのある人びとも、ヒンディー語、ウルドゥー語と呼ばれる言語を用いて意思疎通していることが改めて確認できた。インタビューの結果は現在もデータ整理の途中であるが、その文法構造や語彙についても、「ヒンドゥスターニー語」と呼ばれるべき言語であるという実感を得たことは、社会言語学の観点からも、学術的に大きな意味を持つと考える。

研究成果の概要（英文）：I collected data to serve as the basis for elucidating the Urdu language, which is a common language for people from South Asia, not only in Pakistan and India, but which does not fall into the category of Hindi, and I also collected data from areas with a large immigrant population. I am still collaterating and analyzing the questionnaires, and plan to make them available on the website.

In addition, although not as a by-product, I have published "Urdu Letters by the Japanese" (ISBN: 9-789697-679157) from Pakistan, as a result of analyzing letters written by people who learned Urdu in Japan.

研究分野：言語学

キーワード：ウルドゥー語 ヒンドゥスターニー語 言語学 社会言語学

### 1. 研究開始当初の背景

本件申請者は、パキスタンにおいてウルドゥー語教育、研究を継続してきたほか、2006年4月から2012年3月まで、また2018年4月から現在まで(任期は2023年3月末までの予定)、東京外国語大学において、ウルドゥー語担当の特定外国語主任教員として教育研究に携わっている。申請者の出身地であるパキスタンや南アジアでは、共通語としての英語の重要性が高まっていることは、よく知られている。しかし実際には、英語よりも、ウルドゥー語やヒンディー語によるコミュニケーションがより重要であることが、現地に赴くと実感できる。ウルドゥー語とヒンディー語は、表記する文字こそ違おうが、口語による相互コミュニケーションにはほとんど支障がなく、世界に広く分布する南アジア系移民の間でも、この口語こそが共通語としての役割を果たしている。一方で、インド、パキスタンでは、母語話者が多数居住しているにもかかわらず、主として政治的な理由から相互研究が進んでおらず、日本という第三国で研究しているからこそ、本研究の対象となる言語全体が俯瞰できる点が本研究の構想の原点である。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、ウルドゥー語、ヒンディー語というこれまでの枠組を越えた、共通語としての役割を果たしている言語(本研究では「現代ヒンドゥスターニー語」と呼ぶ)の言語学的側面の多様性の実態を解明することにある。これまで日本国内ではウルドゥー語、ヒンディー語個別の研究は少なからず見られるものの、同一言語の社会変種という観点からの研究は、その必要性を説く研究者はいたが、目立った成果はまだ無い状況である。相互理解が可能なウルドゥー語、ヒンディー語の話者人口は母語話者に限るとしても、インド、パキスタン両国だけで6億人を越える。これに加えて、地域共通語としての役割を果たすため、理解可能な人口は約10億に上るが、従来の言語の枠組を超えた言語学的研究はこれまで皆無と考えていい。南アジアでは、英語の1変種であるヒングリッシュ(Hinglish)と称される言語の研究も拡大し始めているが、それを越える規模で南アジア地域や世界各地の南アジア系移民に用いられている「現代ヒンドゥスターニー語」は研究対象になっていないのである。

本研究の主たる目的は、インド、パキスタンに限らず、世界各地の移民の間で用いられている共通語「現代ヒンドゥスターニー語」の多様性を、1言語の地域変種という観点から捉え直す点にある。それにより、従来のヒンディー語やウルドゥー語という枠組では捉えきれなかった特徴を浮かび上がらせることができ、それは、南アジアをはじめとして、「現代ヒンドゥスターニー語」の話者が分布する各地域の複雑な言語状況を理解するための一助となる。

### 3. 研究の方法

本研究は、当初3年間の計画とし、以下のとおり日本国内外での現地調査とそのデータ分析、構築を主たる研究としていた。しかしながら、新型コロナウイルス蔓延により、1年間の計画延長を申請し、認めていただいた。以下は、申請当初の計画である。

#### 初年度(2020年度)

南アジアからの移民が歴史的に多いイギリス、および近年移民の数が急増しているオーストラリアを対象地域として、両国でインタビューによる現地調査を実施する。また、日本国内の南アジア系が集住する地域のうち、パキスタン系の集住地域である富山県射水市を対象としたインタビューを実施する。

また、日本国内においても、**パキスタン人コミュニティとして知られている富山県射水市（イミズスタン）でインタビューを実施する。**

インタビュー項目としては、個人情報に関する説明を実施した上で、出身地、母語、第一言語、及びコミュニケーションに用いる言語に関する情報を得つつ、調査ということを意識させないよう、言語の使用状況について参与観察を行い、映像もしくは音声を記録する。記録した内容は全てテキスト化し、対象者の許可を得た上で、個人が特定されないような形で公開する。本研究には、文字の差異に縛られない、共通語としての口語の体系を明確にするという意図があるため、テキスト化するには、原則としてローマ字による転写記号を用い、いわゆるヒンディー語やウルドゥー語という枠にとらわれないよう意識する。

#### **第2年度（2021年度）**

第2年度には、政治的状況が安定し査証が取得できれば、インドでのインタビュー調査を実施する。現地の状況如何では、インドでの調査は3年目に実施するか、研究協力者である萬宮健策（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）が、インドでの調査を実施する。萬宮が調査を実施する場合でも、電子メールや Skype 等で連絡を密に取りながら実施するため、研究遂行に支障はない。

また、日本国内では、「リトル・インド」とも呼ばれる東京都西葛西を中心とした地域での調査を実施する。この地域には、南インド出身者が多数居住しており、彼らはいわゆるヒンディー語への反発が強いと言われる。したがって、本研究の対象である「現代ヒンドゥスターニー語」がどの程度用いられているか、対照研究的な位置づけとなる。初年度に収集したデータの分析を行い、そこから生じるであろう新たな課題解決のため、必要であれば追加調査を実施する。

#### **最終年度（2022年度）**

最終年度は、2年間で得られたテキスト・データの精緻化を図る。得られたデータをもとに、既存のウルドゥー語やヒンディー語の文法書等との対象を行い、主として相違点を中心に検討を行う。本研究で得られたデータをもとに、日本言語学会等の学会発表を実施するほか、公開可能なデータは、ウェブサイトで公開し、他の研究者の便を図る。

#### **4. 研究成果**

出自や宗教を問わず、南アジア地域出身者の共通語としての役割を果たしていると仮定する『現代ヒンドゥスターニー語』の現状を探るために、**2023年度はパキスタンおよび、ヨーロッパ各国に居住する南アジア出身者へのインタビュー調査を実施した。**データの精査をしており最終結果として公表するには少し時間を要するが、主としてパキスタンおよびインドにルーツをもつ居住者から得られた情報は、今後の研究に継続して用いていく予定である。

また、パキスタン出張時には『現代ヒンドゥスターニー語』のサンプルとも言える書簡集『日本におけるウルドゥー語書簡』の出版(ZAK Books, Karachi, Pakistan 2023)も成果の一部として実現した。20世紀後期から21世紀初頭にかけてのウルドゥー語に携わるものたちの書簡を収集し、文体や語彙に関する分析をする際の資料としての利用価値も高いと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Khan, Amir Ali	4. 巻 101
2. 論文標題 Epic Songs & Their Singers in the Context of the September War	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 185-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/95714	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Khan, Amir Ali	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ZAK Books, Karachi	5. 総ページ数 316
3. 書名 Japan men Urdu Maktub Nigari	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------